

【助成事業の名称:まんなか商店街誘客推進イベント】

ポイント



“伝統と革新の漆ロード”漆と朝市の街が発信する地域型商店街の新たな姿

輪島塗などの伝統と歴史を踏まえ、集客力のある朝市の活気を取り込んで商店街の活性化を推進。道路の拡幅・整備により、伝統のイメージを残しつつ近代的な街並みに生まれ変わった商店街が、地域の高齢者や買い物困難者への支援を展開。地域になくはない“漆ロード”は、観光と癒しの街としての付加価値を高めつつある。

商店街情報

所在地:石川県輪島市河井町2-287-1
 商店街の類型:地域型商店街
 地域の人口:26,890人 12,714世帯
 (輪島市2019年6月1日現在)
 組合員数:60名(2019年3月)
 (主な業種構成:飲食料品販売、漆器製造・販売、飲食店、建具、衣料品、土産品、化粧品・薬局、金融機関等)
 電話:0768-22-1239 Fax:0768-22-1255
 URL : <https://wajima-mannaka.com>



商店街の風景

商店街の概要と近年の環境変化

輪島市まんなか商店街は、重厚な風合いの伝統工芸品輪島塗や、輪島の朝市で知られる石川県輪島市のほぼ中心部に位置する地域型商店街。能登半島を南北に連絡し、金沢市に至る国道249号線に面し、「漆ロード」の名称を持つ。約400mの街区は、かつての輪島の風情を残しつつ近代的な街並みに生まれ変わっており、輪島塗を一堂に集めた輪島塗会館や漆器の専門店が軒を並べている。また、徒歩で3分ほどの場所には、日本三大朝市の一つとして知られる輪島の朝市通りがあり、回遊して訪れる観光客も多い。

輪島市は、能登半島の北西部に位置する奥能登の中核都市で、県庁所在地の金沢市から120km、車で約1時間30分の距離にある。江戸時代には北前船の寄港地として栄え、海や山の豊かな自然に恵まれるとともに、伝統工芸品の輪島塗や輪島の朝市、曹洞宗大本山の総持寺祖院などの豊富な観光資源に恵まれ、年間を通じて多くの観光客が訪れている。特に、2015年の北陸新幹線の開業により首都圏等からの客足も増加している。

一方、少子高齢化の進展や域外への人口移動等により商業環境が悪化しつつあることに加え、基幹産業である伝統工芸も他の産地同様企業数や生産高が減少傾向にあり、職人の高齢化等と相俟って地域振興の上で大きな課題となっている。

「まんなか商店街」という名称は、平成11年の任意組織の法人化に伴い、一般からのネーミング募集で、従来の「中央通り」から市の中心部にある商店街に因んで「まんなか商店街」と名付けたもの。組合では、歩行者天国の通りでステージイベント等を行う「まんなかフェスタ」や「スタンプラリー」等で集客を図るほか、住民が集う憩いの場「まんなかふれあいサロン」の運営など地域コミュニティの支援にも力を入れている。さらに、平成19年に発生し



▲200の露店が並ぶ朝市・売主は女性中心



輪島塗会館

キリコがモチーフのからくり時計▼



LEDフットライトが漆器を照らす▼

た能登半島地震では、いち早く復旧・復興に取り組み、街の賑わいの確保等に取り組んできた。

また、平成24年から国道249号線(釜屋谷塚田線)の拡幅工事が行われ、商店街も「輪島・まんなか漆ロード再生事業まちづくり協議会」を通じて事業を推進。平成30年4月に商店街区の総延長400mについて、山側のセットバックによる道路の拡幅、舗道の整備、無電柱化等を完成。「輪島風」といわれる昔ながらの瓦屋根の伝統的なたたずまいを持つ街区に、輪島大祭のキリコをモチーフにした街路灯の設置や、通りのシンボル樹「のとキリシマツツジ」を植樹して“観光の街”としての体裁を整えつつある。



輪島市ふれあい健康センター敷地内の
のとキリシマツツジ

助成事業の概要とその成果

当商店街では、地元の伝統工芸輪島塗に因み『うるし、いやし、おもてなし』を合言葉に、漆通りの街づくりと人にやさしい街づくりを進めてきた。しかし、周辺への大型店の進出などで商業環境は一段と厳しさを増している一方、過疎化・高齢化等による買い物弱者の増加など社会的要請も高まっており、活性化・賑わいづくりとともに地域コミュニティ支援も重要な課題となっている。そこで商店街では、従来から展開している「まんなかフェスタ」の充実を図るとともに、伝統芸能による“癒しクラブ”、スタンプラリー等の参加型事業や、情報発信を強化して商店街の各種事業の利用を呼び掛けた。

①まんなかフェスタの開催

7月の第4土曜日、青年部と女性部が中心となり、商店街を歩行者天国にしてステージと路上でのイベントを開催。輪島キリコ太鼓、輪島まつり太鼓、津軽三味線や保育園児によるお遊戯などプロの演奏家から地元の方まで幅広い出演があり、商店街婦人部による手作り料理の販売等で6,000人を超える集客を実現した。特にこの事業では、商店街が実施している配食・宅配のお客様をタクシーで送迎し、来街が困難な方々への対応を図った。

②癒しクラブの開催

まんなかフェスタだけでは商店街のPRが不足していると考え、商店街の中ほどにある「ふれあい健康センター」を中心に、11月と12月の日曜日にイベントを開催。津軽三味線と地域芸能を披露したほか、組合員店舗の新商品の紹介、輪島漆芸美術館のグッズ展などを開催し、ここでも来街困難な方を対象にタクシーでの送迎を実施して多くの高齢者に喜ばれた。

③スタンプラリーの実施

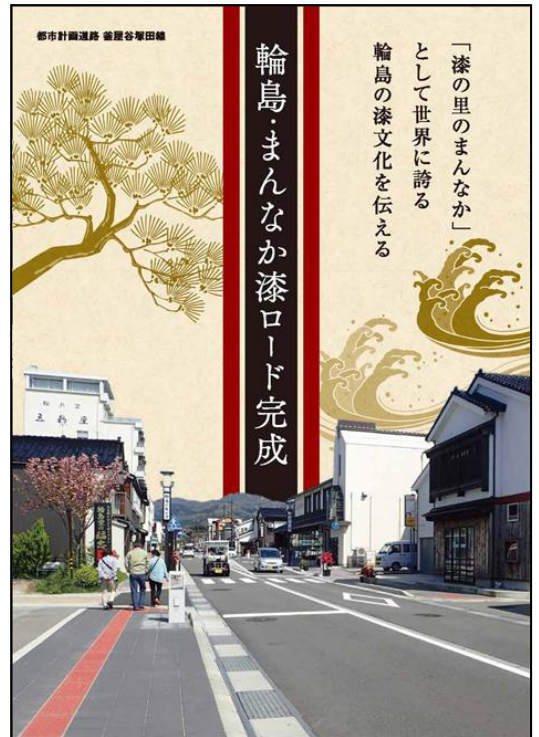
新規顧客の獲得と日頃の感謝を込めて11月末から1か月間スタンプラリーを実施。輪島高校の生徒の協力による地元の特産品を景品とした抽選会を行ったほか、新たに、組合員店舗をPRする商店街マップを作成。輪島塗会館や金融機関、のと里山空港等にも設置して商店街回遊のきっかけづくりとした。

また、これらのイベントの開催に合わせて商店街のホームページをリニューアル。遠くから訪れる観光客への情報提供と、近隣の人々にはリアルかつ新鮮な情報の提供を心掛けた。

<助成事業実施の成果>

まんなかフェスタの開催では、地元の方々の発表の場が設けられたことで多くの来街客があり、店舗での販売効果もあった。また、新たな取り組みとして、過疎地域に住む宅配等のお客や住民の方を、送迎等により積極的に呼び込むイベントとしたことで、地域のコミュニティづくりにも大きな効果があった。

イベント事業等の結果、これまで街に来ていなかった顧客が増えるなど賑わいの創出とともに、漆工芸作家からの出店の問い合わせがあるなど、空き店舗解消へのきっかけともなっている。



積極的な情報発信に取り組んでいる



イベントにより、地域のコミュニティづくりに貢献

助成事業以降の商店街活動

平成24年度より進めてきた都市計画道路釜屋谷塚田線の拡幅・舗道の整備と無電柱化が平成30年4月に完成。輪島風の美しい街並みの創出と快適な歩行空間が確保され、回遊性も一段と向上して来街する観光客も増加しつつある。また、工事中は「まんなかフェスタ」は一時中断となったが、スタンプラリーを継続開催し、景品として各店舗の一押し商品を提供。さらに、地域に必要とされる商店街活動として、社会的要請への対応など以下の事業を実施している。こうした活動の周知のため、商店街WebサイトのリニューアルとSNSの活用で情報発信力を一段と強化した。

① 宅配サービス事業

従来から商店街が手掛けてきた事業で、山間部などの買い物困難な地域の人々を対象に、移動販売や宅配サービスを実施。宅配サービスは、組合が商品の依頼の電話を受け、ショッピングセンターが品物を揃えて車で配送しており、高齢者の安否確認にもなっているほか、簡単な相談事にも対応している。また、移動販売は曜日を決めて各地域を回っており、心待ちにしている人も多い。

② 安心サポート事業

ボランティアの「輪島おたすけ隊」との連携で、高齢者等の世帯を対象に、買い物代行や粗大ごみの回収、電球の取り換えや除雪等の生活に直結する支援サービスを行っており、安否確認も兼ねた事業となっている。

③ 便利屋事業

輪島市ふれあい健康センター内にある商店街の事務局が窓口となり、簡単な工事など該当する事業者を紹介し、住民の利便に供している。

④ コンパクトストア(まんなか出張商店街)

高齢者施設等への出張販売をする事業で、車に商品を積んで訪問する移動販売方式を採っている。高齢な方々に、実際に見て、選んで買う“買い物の楽しみ”を味わってもらおうもの。近隣に住む高齢者などにも開放し、それぞれの地域で訪問を心待ちにしている方が多い。

⑤ レンタル事業

商店街振興組合が保有している駐車場、各種のテント、コンロ、イス・テーブル、イベント機材等を組合員の事業の用に供するだけでなく、一般の住民にも貸し出しを行っている。

⑥ 情報発信

振興組合ではWebサイトをリニューアルし、商店街のお土産をオンラインで購入できるしくみを導入したほか、SNSの情報発信も充実させ商店街の活性化につなげている。新着情報や新規のイベント情報がリアルタイムに発信され、地元客や観光客の利用が増えている。



「令和を記念したお祭り」子供・高齢者に配慮したイベント



チラシ・SNS等で地元住民、観光客に情報発信

組合のWebサイトから
輪島塗や日本酒などがオンライン購入できる



自治体による活性化支援等

輪島市

輪島市は能登半島の北西部に位置し、豊かな海と緑に囲まれ、市内には伝統工芸の輪島塗や朝市をはじめ多くの観光スポットがあり、毎年100万人を超える観光客が訪れている。一方、当市も他の地方都市と同様に高齢化と人口の減少が大きな課題であり、市内の商業もこれらの影響で売上げが減少傾向にあるほか、輪島塗も生産高や事業者数の減少など様々な課題を抱えている。こうした中で、今後の産業振興等の方向の一つとして、朝市を拠点とする観光の振興があり、地元客の減少を観光客の購買でカバーしていく等の努力が求められている。

現在、市内には六つの商店街があり、厳しい環境の中で活性化に取り組んでいるが、特にまんなか商店街は、商店街区の近代化が終了し、積極的なイベント事業を展開している。また、地域の高齢者対策などを実施しているほか、外国語のガイドブック等で観光客への対策も進んでおり、今後の活動に期待を寄せている。こうした商店街等の活動に対し、現在市では「商業等活性化推進支援制度や起業・新規出店支援制度」を設けて、積極的に支援を行っている。

＜商業団体等が実施する事業への助成＞

①魅力創出事業への助成

コミュニティ施設等の集客施設や案内板、花壇、駐車場・休憩施設等の整備や購入に必要な費用の1/3(事業内容によるが概ね上限300万円)を助成

②にぎわい創出事業への助成

商業団体等が事業主体となり、賑わい創出につながるイベント等に対し、事業費の1/2以内(1団体の場合50万円を上限)を助成

③共同販売施設設置事業への助成

農林水産物や地元産品等を共同で販売するための施設の整備に対し、事業費の1/3以内(事業内容によるが概ね200万円を上限)を助成

＜輪島市起業・新規出店支援事業＞

「あと一歩」で起業や新たな出店が実現できそうな案件に対し、初期投資等で支援する事業。事業所の開設費用の場合、店舗の建設や改修・備品の購入等について、市内金融機関からの借入金と同額又は対象経費の和の1/2のいずれか少ない額で、300万円を上限として助成。

取材を通じて明らかになったこと

消費者に継続的に商店街を訪れてもらうためには、購入したい商品が揃っている店舗と街区が整備され安心して買い廻れる環境が整っていることが挙げられる。加えて、観光客等の来街については、歴史や文化などその土地に因んだ商品を見て、買って、文化的な要求も充足されて“この地に来て良かった”と思えることである。輪島市は、伝統工芸や朝市など豊富な観光資源を有している中で、当商店街では輪島塗の伝統や朝市の効果などを有効に活用して積極的に集客に取り組むとともに、街区の整備も“輪島らしさ”を前面に出したものを追求している。

また、少子高齢化や買い物難民等の状況を踏まえ、地域コミュニティ支援や社会的対応等への取り組みも素晴らしく、癒しの街を具現化しているといえよう。

さらに、キャッシュレス対応への取り組みなど、今後の商店街に不可欠な要素について積極的に対応していく姿勢は多くの街の参考になるものといえる。

商店街の今後の戦略

インバウンド対応と 地域コミュニティを支援

国道の拡幅、無電柱化等に加え、キリコ型の街路灯やのとキリシマツツジの植樹、さらに輪島のイメージによる個店の改装等で多くの方々に来てもらえる街並みの整備を進めることができた。また、近隣のホテルが増室工事をしており、今後はより多くの観光客の来街が期待できる状況にある。振興組合では、“うるし、いやし、おもてなし”をスローガンに、子供からお年寄りまで、誰もが気軽にお店に立ち寄り、くつろいでいただける街づくりを進めており、今後はインバウンド対応等も強化していきたい。現在、外国語対応の商店街マップを作成しているが、QRコードへの対応等キャッシュレス化は避けて通れないので、各店舗が対応していけるよう勉強会等で対策を進めていきたいと考えている。

また、地域コミュニティとの関係では、障害者との交流パーティを開催し、ゲームなどで楽しむでもらっているが、こうした取り組みを進めるとともに、バリアフリー、スローライフなど高齢者や弱者にやさしい商店街として付加価値を高め、滞在型の観光と合わせて活性化に取り組んでいきたい。

商店街組織の強化については、近隣のより幅広い人々の参加と、街中に、Uターン・Iターンによる新しい事業者の登場を応援していきたい。



～ 仕掛け人 ～ 輪島市まんなか商店街振興組合
左 理事長 福田和稔
右 副理事長 高田雅文